

科目名	ゼミナール	英語科目名	Seminar
開講年度・学期	平成21年度後期	対象学科・専攻・学年	専攻科物質工学専攻2年
授業形態	演習	必修 or 選択	選択
単位数	1単位	単位種類	学修単位45h
担当教員	原則として特別研究の指導教官	居室（もしくは所属）	電気・物質棟3,4階・物質工学科実験棟1階・専攻科棟4F
電話		E-mail	
<b>授業の達成目標</b>			
1. 速報、原著論文、総説、アブストラクト等の区別ができ、その役割を説明できること。 2. 専門語彙を300語以上増やすこと。 3. 主語、述語、目的語、補語の区別、および品詞の区別がつくこと。 4. 英和辞典を自分で引いて、発音記号を基礎して発音ができること。 5. 現在（present）、過去（past）、未来（future）の時制（tense）を区別できること。 6. 論理的な日本語訳ができること。			
<b>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</b>			
達成目標1～6: スクールワーク(音読、翻訳、意味の説明) 70% ホームワーク(予習復習のノートの内容)30%			
<b>評価方法</b>			
関連内容に対する理解度または運用能力が60%以上の成績で達成とする。			
<b>授業内容</b>	<b>授業内容に対する自学自習項目</b>		<b>自学自習時間</b>
指導教官のもとで選定した特定分野やテーマに関する外国語文献の音読、翻訳を行い、その内容を説明させる。 1. 受講した学生が割り当てられたパラグラフ毎、あるいはセンテンス毎に音読、翻訳を行い、その内容を説明する。 2. 学生が行った音読、翻訳の誤りを担当教員が訂正し、内容を分かりやすく講義する。 3. 読んだ英文に関連した専門の内容について担当教員と議論する。 予習 - 少なくとも次回の授業で進むと考えられる範囲を3回以上音読し、分からない単語の意味とその発音記号を単語ノートに記録する。日本語訳をノートに書き、論理的な文章になるまで手直しをする。 授業 - 各自の分担の箇所を音読、翻訳し、意味を説明する。他者の音読、翻訳、説明にも耳を傾け、自分が予習してきた内容と比較する。教官の説明によって自分の誤りを訂正し、疑問点があれば教官に質問する。 復習 - 授業での内容を反復学習し、新しく学習した専門用語を記憶する。 授業で進んだ部分の音読を少なくとも3回行う。			
<b>自宅学習時間合計</b>			
<b>キーワード</b>	英語、専門用語、音読、読解		
<b>教科書</b>	各担当教員が選択		
<b>参考書</b>	中村喜一郎、青柳忠克著「やさしい化学英語」オーム社（1989） 湊宏著「化学英語」東京化学同人（1978） 千原秀昭ら「化学英語の活用辞典」化学同人（1987） 玉虫伶太ら著「エッセンシャル化学辞典」東京化学同人（1999）		
<b>小山高専の教育方針 ～ との対応</b>		自然科学・英語・専門基礎科目の学力向上	
<b>技術者教育プログラムの学習・教育目標</b>			
(D-2)			
JABEE 基準 1 の ( 1 ) との関係	g		
カリキュラム中の位置づけ			
特別研究のための基礎知識および、関連の専門用語についての知識を得ること。			
前年度までの関連科目	化学英語、応用英語Ⅰ,Ⅱ		
現学年の関連科目	ゼミナールⅡ		
次年度以降の関連科目	なし		
<b>連絡事項</b>			
理解が困難な場合は、その都度相談に応じる。予習、復習は確実に行うこと			
シラバス作成年月日	平成 21 年 2 月 21 日		

